

県立三好病院

平成22年7・8月号

今月の特集：脳卒中と徳島県脳卒中地域連携パスについて



3F病棟スタッフです。

— 県立病院事業基本理念 —

県民に支えられた病院として 県民医療の最後の砦となる



発行 徳島県立三好病院 広報委員会
〒778-8503 徳島県三好市池田町シマ 815-2
TEL 0883-72-1131 FAX 0883-72-6910
HP <http://www.tph.gr.jp/miyoshi/>

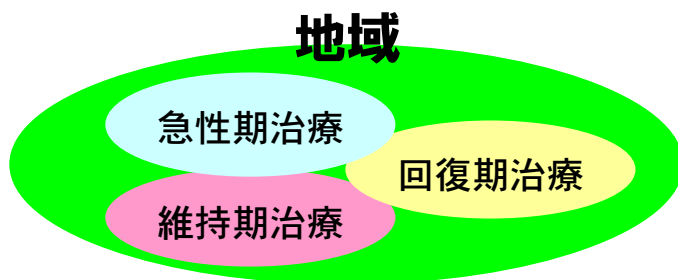


脳卒中と徳島県脳卒中地域連携パスについて

脳神経外科 依田 啓司

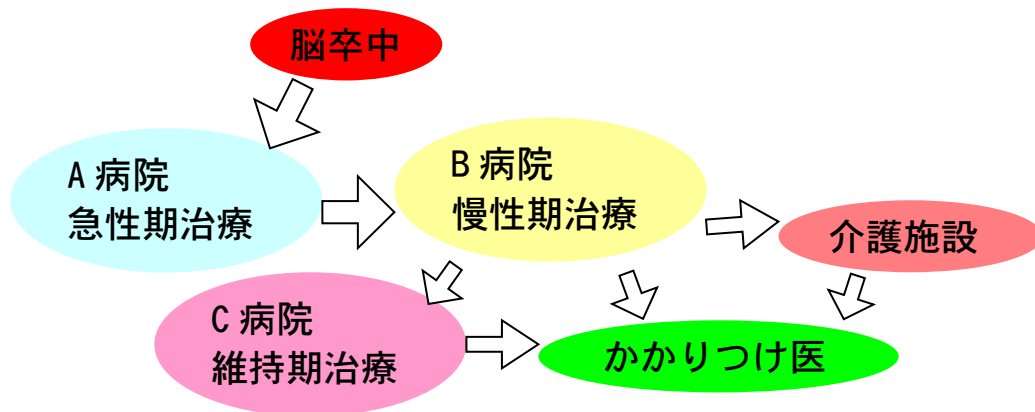
脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血の三つの疾患をまとめて脳卒中といいます。
三好病院では毎年170～200人の患者さまが脳卒中で入院され治療を受けており、
脳梗塞が最も多く全体の約60% 100～120人
脳内出血・・・全体の約30% 50～60人
くも膜下出血・・・全体の約10% 15～20人です。

脳卒中の治療は①急性期治療、②リハビリを主体とする回復期治療、③維持期(慢性期)治療の3段階に分けられます。ひとたび脳卒中になると急性期病院だけで治療を完結することは少なく、多くの患者さんは急性期治療後はリハビリ病院でのリハビリを必要としています。さらに回復期治療後に必要な場合は維持期・慢性期治療目的での療養・介護治療を行っていきます。



一つの病院だけで急性期治療、回復期治療、維持期治療・介護すべてを行っていくことは困難です。このため地域全体の病院が協力し合い連携をとって、それぞれの病院の得意分野を生かすことで急性期から維持期(慢性期)までの治療をカバーしていこうという取り組みを医療における地域連携といいます。

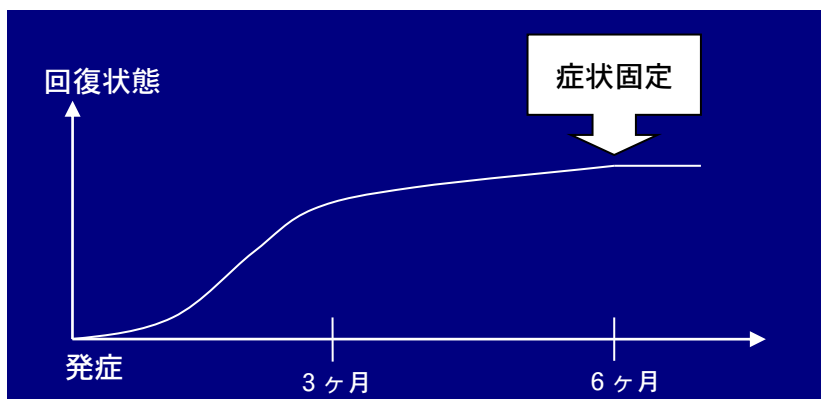
例えばA病院では急性期治療を行い、B病院では回復期治療(リハビリ)が行われ、C病院ではその後の慢性期治療や介護が行われ、最終的にはかかりつけ医が再発予防を行っていくといった流れです。



以前はこの役割分担がはっきりしていなかったため、急性期治療が終了してもすぐにリハビリに組み入れず回復が遅れるなどの問題点がありました。

徳島県では平成20年秋から徳島大学が中心となってこの脳卒中地域連携についての取り組みが始まり、脳卒中地域連携パスという県内の脳卒中治療を標準化した基準を用いて治療を勧められています。三好病院では平成21年春から準備を始め21年秋から脳卒中地域連携パス運用を始めました。

三好病院は急性期病院として脳卒中の救急患者さんを受け入れし、同時にできるだけのリハビリも並行して行っていくわけですが、当院のリハビリスタッフは2～3名と少なく、逆にリハビリを必要とする患者さんは脳卒中の方以外にも整形外科、内科で入院中の方などたくさんおられます。この結果患者さん一人当たりのリハビリは時間・量とも十分なものとは言えません。脳卒中後の機能回復は最初の3ヶ月間は急速に回復していきますが3ヶ月目から6ヶ月まではその回復は頭打ちとなり、6ヶ月目には通常症状固定であるとされ、6ヶ月目からの機能回復はあまり期待できません。そこからは現状の機能をいかに維持していくかが課題となります。このためリハビリが必要な患者さんはなるべく早く、機能回復が期待できる最初の3ヶ月間をいかに有効に密度の濃いリハビリを行っていくかが大事です。



連携パスの実際

- ① 三好病院に入院した時点で脳卒中地域連携パスについての説明と同意。
- ② 重症度、機能予後などを評価し回復期リハビリ病棟でのリハビリが必要か、一般のリハビリで可能かを判断。
- ③ 急性期治療期間のメドをつける。
- ④ 急性期治療が終了するのと同時にリハビリができるリハビリ病院を手配する。この手配は当院の医療相談室を介して行われます。
- ⑤ 三好病院で行われた治療内容の詳細、経過、リハビリの進行状況が次に進む病院のスタッフが一目でわかるような形で情報が提供されます。
- ⑥ リハビリ病院での治療後、リハビリ病院でおこなわれた治療内容と、急性期病院での治療内容を次の病院、またはかかりつけ医の元へ送られます。

連携パスに同意が必要な理由

下記のような個人情報が記載されるため個人情報保護法のもと情報交換に同意を必要とします。

名前、生年月日、病名、既往歴、病状経過、日常生活の評価、認知症の有無、生活環境、家族構成など

回復期リハビリ病棟

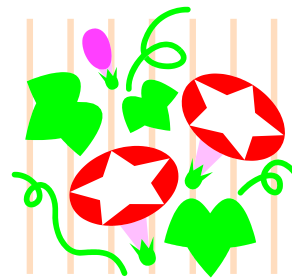
回復期リハビリ病棟を持った病院では、主に四肢の機能回復に携わる理学療法士(PT)、手指の機能回復日常生活のための機能回復に携わる作業療法士(OT)、言語機能、嚥下機能回復に携わる聴覚言語療法士(ST)などのスタッフが揃っており、1～2時間/日の十分なリハビリが可能となります。

三好病院近辺の主な回復期病棟併設病院

ホウエツ病院(脇町) 鴨島病院(鴨島) 橋本病院(香川県山本町)など

回復期リハビリ病棟に準じた病院

三野田中病院 三加茂田中病院 など



脳卒中地域連携パスは早期に在宅復帰を支援するためのシステムです。是非御利用ください。不明な点、相談があれば医療相談まで。



シリーズ「三好病院の裏方…委員会活動の紹介」

三好病院では医師・事務・各種コメディカル・看護師で構成された37の委員会・ワーキンググループがあります。シリーズとしてどんな活動をしているのか皆様にご紹介していきます。



3. NST推進チーム

【委員会設置の目的】

NST推進チームは、三好病院における入院患者の栄養管理レベルの向上に寄与することを目的として設置されました。

【活動の概要】

担当医から、患者さんの栄養状態の主観的・客観的評価を受けて、NSTの介入依頼のあった患者さんを回診し、身体計測及び食事摂取状況の観察を行います。同日中にカンファレンスを行い、各患者さんのストレス状況等を踏まえての適切なエネルギー量を算出し、栄養管理の質的改善点をチームで検討し、担当医への提言を行っています。

そのほか、勉強会等を実施することにより、チームのメンバー及び病院職員の資質向上につとめています。

臨時看護師募集

県立三好病院では臨時看護師、臨時准看護師を随時募集しています。
詳しくは県立三好病院看護局（内線243）まで

ご意見・ご要望がございましたら、ホームページ、または院内ご意見箱までお願いします。
広報バックナンバーはホームページにてご覧になれます。